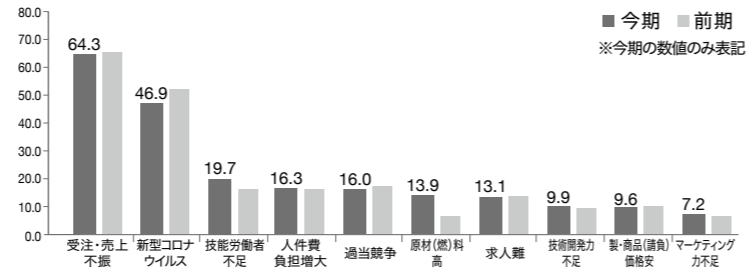


国内景気及び自社業況BSI値は、
マイナスでの推移となった

当面の経営上の問題点

第1位は「受注・売上不振」(64.3%)、第2位は「新型コロナウイルス」(46.9%)、第3位は「技能労働者不足」(19.7%)、第4位は「人件費負担増大」(16.3%)、第5位は「過当競争」(16.0%)であった。

(20項目より3項目以内回答、回答企業数%)



ピックアップ 調査結果のポイント

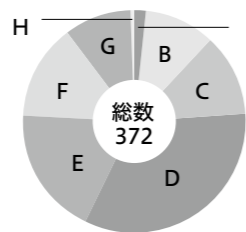
付帯調査

新型コロナウイルスによる影響について

— コロナ禍により前年度よりも売上減少の企業は7割を超える —

●前年度と比較した今年度の売上<単一回答>

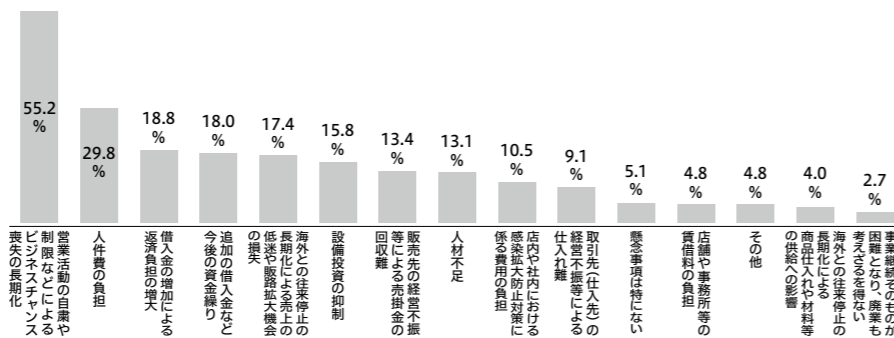
今年度と前年度の売上を比較したところ、全体の76.1%が前年度よりも売上が減少、前年度と同程度が13.7%、前年度よりも増加したと回答した企業は、9.7%であった。「サービス業」においては、「50%以上の減少」が4割弱であった。



区分	割合 (%)
A: 80%以上の減少	1.9%
B: 50%以上~80%未満の減少	10.2%
C: 30%以上~50%未満の減少	11.8%
D: 10%以上~30%未満の減少	33.3%
E: 10%未満の減少	18.8%
F: 同程度	13.7%
G: 増加	9.7%
H: その他	0.5%

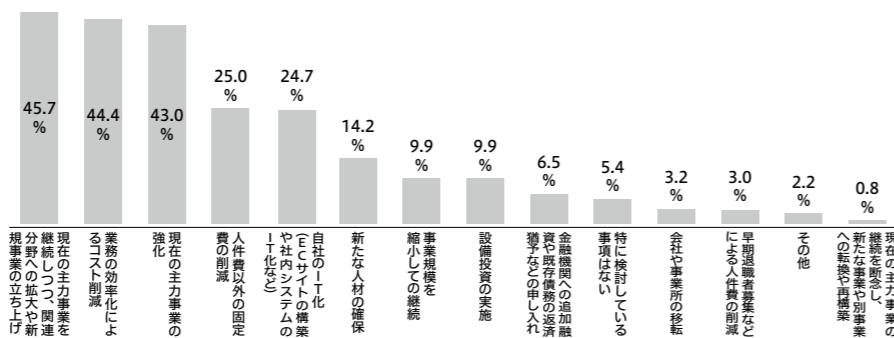
●コロナ禍の長期化により現在及び今後懸念されること<複数回答3つ以内>

「営業活動の自粛や制限などによるビジネスチャンスの喪失の長期化」が最も多く選択され、55.2%であった。続いて「人件費の負担」29.8%、「借入金の増加による返済負担の増大」18.8%、「追加の借入金など今後の資金繰り」18.0%と続き、コロナ禍でのビジネスチャンスの喪失によって売上が減少し、資金繰りや人件費負担が経営上の懸念となっている。



●事業継続のために、今後検討していること<優先度の高いもの3つ以内>

「主力事業を継続しつつ、関連分野への拡大や新規事業の立ち上げ」(45.7%)、「業務効率化によるコスト削減」(44.4%)、「主力事業の強化」(43.0%)と、事業者の多くが現在の主力事業の継続を中心にしており、判断等に時間を要する事業転換や再構築等は、緩やかに動き出すのではないかと推測される。



実績

国内景気 前期よりも下降し9期連続のマイナス

自社業況 再びマイナスへ転じた

予想

国内景気 先行きは春の繁忙期により上昇を示し、明るさを見せている

自社業況 ワクチンの普及など、先行きへの期待が上昇している

規模別の業況

大企業、中小企業ともに国内景気同様、大きく下降した

POINT!

概要

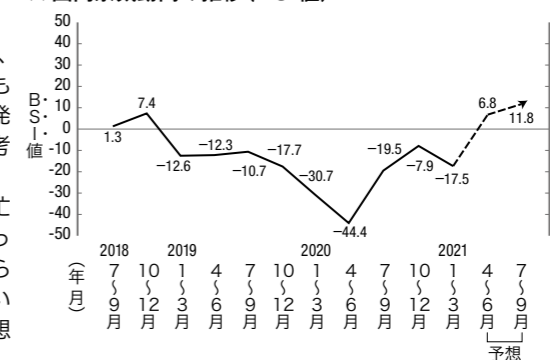
国内景気BSI値

▲17.5

今期の国内景気 BSI 値は▲17.5(前期実績▲7.9)と、前期から下降した。例年、1-3月期は、10-12月期よりも落ち込むことが多いが、今回は2回目の緊急事態宣言発令が重なったことも、大きく落ち込んだ一因であると考えられる。

今後の予想については、4~6月期が6.8と、春の繁忙期とワクチンの供給が開始されることへの期待もあってか、上昇を示している。続く、7~9月期が11.8とさらに上昇を示しており、先行きはやや明るさを見せている。ただ、新型コロナの感染状況によっては、今後の予想も大きく変わるため、まだ楽観はできない。

★国内景気動向の推移 (BSI 値)



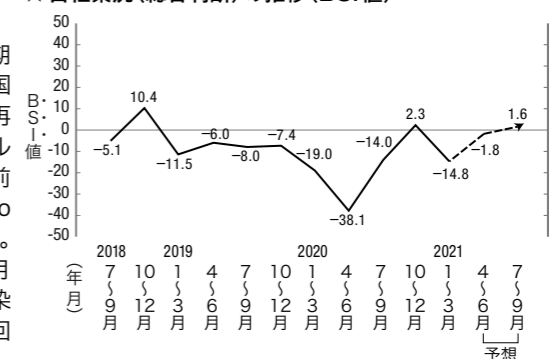
自社業況BSI値

▲14.8

今期の自社業況 BSI 値は▲14.8(前期実績2.3)と、前期は8期ぶりにプラスへ転じたが、再びマイナスとなった。国内景気同様、京都を含む関西2府1県への緊急事態宣言の再発令により、大きく落ち込む結果となった。Go to トラベル事業により、やや持ち直していた旅館・ホテルは▲44.2<前期実績12.5>と、感染者数の増加に伴う自粛傾向と Go to トラベルの一時停止などの影響から、急激な下降を示した。

今後の予想については、4~6月期が▲1.8、続く7~9月期が1.6と、一進一退の状況が続くことが予想される。感染対策やワクチンの普及などを背景に、徐々に経済活動が回復していくことが期待される。

★自社業況(総合判断)の推移 (BSI 値)



B.S.I.値の総括表

項目	実績		予想	
	2020年10~12月期	2021年1~3月期	2021年4~6月期	2021年7~9月期
国内景気動向	▲7.9	▲17.5	6.8	11.8
自社業況(総合判断)	2.3	▲14.8	▲1.8	1.6
1 生産・売上高、工事施工高	5.0	▲13.8	▲0.8	2.6
2 製・商品・サービス・請負価格	▲0.4	▲2.6	0.4	▲0.7
3 経常利益	0.5	▲15.6	▲4.8	▲1.4
4 所定外労働時間	3.8	▲7.9	▲3.4	▲0.6
5 製・商品在庫	5.6	6.5	5.1	4.0
6 資金繰り	▲4.0	▲7.4	▲3.1	▲1.5

※B.S.I.値=(上昇[増加、他]-下降[減少、他])×1/2

(注)1~3月期のBSI値は、2020年10~12月期の景況感を基準に強気なら「プラス」、弱気なら「マイナス(▲)」で表している。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。

(注)2月下旬から3月中旬にかけて同調査を実施し、528社中375社から回答を得た(対象は、京都府内に本社、本店などを持つ企業)。

お問合せ先

中小企業支援部
TEL:075-341-9780

調査結果概要は、本所ホームページからダウンロードできます。
京都商工会議所 BSI値